



地域資源活性化委員会

委員長 野田 幸洋

**鯉のぼり撤去作業**

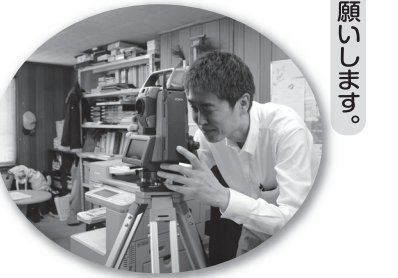
毎年恒例となっておりますゴールデンウィーク期間中の袋川(若桜橋から花見橋間)での鯉のぼりの掲揚ですが、5月7日に「袋川を育む会」、「鳥取青年会議所」と共同して撤去を行いました。

天気を心配していましたが、多くの経験者がおられ作業もスムーズに進み、予定時間より早く無事終了しました。最近では、街中で鯉のぼりを掲揚している家もあまり見かけなくなり、ちよっと寂しい気がします。が、袋川の鯉のぼりは年々増加しているそうです。やはり端午の節句は鯉のぼり。優雅に泳ぐ鯉のぼりは壮観です。

私は、今回が初めての参加でしたが、袋川を身近に感じる事ができ、袋川を育みつつ、季節の伝統にも触れるこのイベントは大変意義深いと感じました。また、市民、観光客の方にも大変好評であると聞いています。来年も楽しみにしています。

今年の5月例会は、4月14日以降九州地方で発生した大規模地震で犠牲となられた多くの方に黙祷を捧げることから始まり、当日会場には募金箱を設置してYEG会員の善意を募りました。今もなお、避難所生活を余儀なくされている被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。毎日のように余震が続く、テレビやネットでは街の惨状が報道されており、私たちに今できることは、通常通り経済活動を行い、循環の一助になることだと思えます。東日本大震災の時には日本国中が「自粛」という雰囲気になりましたが、今の日本に必要なことは同じ日本人として「自粛」というフレーズではなく、気遣いや心配りという「配慮」であり、復興途上の東日本大震災をも風化させないことではないでしょうか。

今年度は親会より青年部への活動支援と会議所活動に対する積極的な参画を重点事項に掲げていただき、例会では「商工会議所の利活用について」と題して藤縄会頭、大谷専務理事をはじめ職員の方から多岐にわたる業務内容を説明していただきました。普段、会員が会議所に



インタビュー・撮影・記事：広報情報発信委員会  
 続きは鳥取YEGホームページをご覧ください。  
<http://www.t-yeg.jp/>

**鳥取YEG 現役会員 インタビュー!**



地域資源活性化委員会 委員長  
 野田土地家屋調査士事務所 代表  
 野田 幸洋君 平成25年11月入会

**「鳥取YEG入会してみようと思った?」 第1弾**

**入会した時の印象はどんなものでしたか?**

野田：入会月に35周年の式典があり、その後も大きな例会が続きどれも大きな会場だったので、内心ビックリしたことを覚えています(笑)。

**入会してからご自身にどんな変化がありましたか?**

野田：これまでは地元でそれほど関心はなかったです。会の活動に参加する中で鳥取により関心を持つようになりました。

**ご自身のこれからの目標をお聞かせください。**

野田：微力ではありますがYEG活動に貢献したいです。仕事面では人事務所なので、将来的に同業の方と合同事務所をつくりたいと考えています。

**これから入会される方にメッセージをお願いします。**

野田：入会することで、必ずプラスになると思います。皆さん優しいですし、フラットな雰囲気があるところなのでぜひ。

野田委員長、お忙しい中ご協力ありがとうございました!

**新入会員**



西村 賢君 (にしむらけん)  
 事業所名 ㈱メンテナンス西村  
 所属委員会 広報情報発信委員会



奥山 大地君 (おくやまだいち)  
 事業所名 ㈱光和電工  
 所属委員会 総務委員会



宇賀 史生君 (うがふみお)  
 事業所名 第一生命保険㈱  
 所属委員会 ビジネス向上委員会



石毛 充之君 (いしげみつゆき)  
 事業所名 三井住友海上火災保険㈱  
 所属委員会 地域資源活性化委員会

**鳥取 YEG 通信**

TOTTORI YOUNG ENTREPRENEURS GROUP  
 発行：平成28年6月15日  
 鳥取商工会議所青年部  
 広報情報発信委員会  
**鳥取商工会議所青年部通信**

**6**  
 June 2016



鳥取商工会議所青年部  
 会長 **牧浦 健泰**  
 株式会社 牧浦商店

**平成28年度 会長あいさつ**

今年の5月例会は、4月14日以降九州地方で発生した大規模地震で犠牲となられた多くの方に黙祷を捧げることから始まり、当日会場には募金箱を設置してYEG会員の善意を募りました。今もなお、避難所生活を余儀なくされている被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。毎日のように余震が続く、テレビやネットでは街の惨状が報道されており、私たちに今できることは、通常通り経済活動を行い、循環の一助になることだと思えます。東日本大震災の時には日本国中が「自粛」という雰囲気になりましたが、今の日本に必要なことは同じ日本人として「自粛」というフレーズではなく、気遣いや心配りという「配慮」であり、復興途上の東日本大震災をも風化させないことではないでしょうか。

今年度は親会より青年部への活動支援と会議所活動に対する積極的な参画を重点事項に掲げていただき、例会では「商工会議所の利活用について」と題して藤縄会頭、大谷専務理事をはじめ職員の方から多岐にわたる業務内容を説明していただきました。普段、会員が会議所に足を運ばないと知り得ない情報やサービスが数多くあることを知り、改めて親会青年部に所属する私たちに与えられる恩恵は計り知れないものがあると感じました。

商工会議所の起源は、1599年のフランスのマルセイユに組織された商業会議所が起源とされており、日本では明治11年3月、東京商法会議所が渋沢栄一初代会頭により我が国初の商法会議所として設立、その後の明治18年には全国で17番目の鳥取商談会が設立されました。時代は変われど「商工会議所」は、地域や会員のために地域の商工業者の声を行政に伝え、政策提言、地域振興、調査、研究等のさまざまな事業が日々行われております。

また、この度の例会では全てをYEGコミュニケーション委員会の一しつらえにより開催致しました。今年度の新しい取り組みとして例会5回は総務委員会以外の委員会が企画運営を行い、特色のある全員参加型の例会運営を行います。例会開始30分前には、試みではありますが自由参加の「異業種・会員情報交換ひろば」と称して、会員企業の新商品や自社PR、セミナー・展示会・講演会案内・名刺交換タイム等でYEGの幅を広げる活動場を設けました。100名を超える会員相互の交流の場として新しいビジネスや仲間づくりができておもしろいと思います。小さな活動から鳥取YEGを大きく発展させ「入会して良かった」と会員の皆さんに思っていたら良かったと会員の皆さんに思っています。すべては「鳥取の元気の会員の元気」のためになる活動に励んで参ります。

**5月例会**

日時 平成28年5月11日(水) 19:00～21:00  
 場所 鳥取商工会議所 大会議室

開会に先立ち、九州震災の犠牲になられた方々に對して黙祷が捧げられました。鳥取YEG会員より義援金が寄せられ、会を通じ被災地に届けられます。牧浦会長より「自粛ではなく日々の経済活動を変わりなく行うことで復興の一助となる」と、青年経済人としてなすべき事を示されました。

さて、5月例会は新たな試みの全委員会持ち回り例会運営の初回で、YEGコミュニケーション委員会が運営を担当しました。親会職員の方々に講師となつていただき「商工会議所の利活用」についての勉強会が開かれました。

まず藤縄会頭より「親会・青年部と相携えて鳥取のために協力していきましょう」と温かい言葉をいただきました。大谷専務理事からは商工会議所の現状・取り組み・課題、井戸垣課長には組織、横山課長には商工会議所のミッションとメリット、青木部長には具体的な利用方法についてご説明いただきました。親会を知るきっかけにもなり、大変有意義な勉強会でした。

引き続き、「因幡千本桜フォトコンテスト」の全応募作品がスライドショーされ、結果発表及び表彰式が行われました。受賞作品以外も、自然の美しさや人々の笑顔が映しだされ元気と勇気が湧いてくる作品ばかりでした。

引き継がれたものに創意と工夫が加えられ、新たな一歩を踏み出した例会となりました。

